JWIMA 通信
Japan Writing Instruments Manufacturers Association

日本筆記具工業会
〒116-0013
東京都荒川区西日暮里2-30-6
TEL03-3891-6161 FAX03-3802-9692
発行：日本筆記具工業会 調査研究広報委員会
URL http://www.jwima.org

第９回通常総会開催
２２年度事業計画決定

日本筆記具工業会は５月１３日午後５時から東京上野の精養軒で第９回通常総会を開催し、平成２１年度事業報告と収支決算、および２２年度事業計画と収支予算を原案通り承認しました。終了後、懇親会を開催し、会員同士の交流を深めました。

筆記具の普及と消費の拡大に書育活動を――堀江圭馬会長

本日はお忙しいところ第９回通常総会にご出席をたまわりましてありがとうございます。

昨年、本工業会の会長に就任して、早１年が経ちました。その間、世界経済は米国リーマン･ショックからギリシャ財政危機へと変移して、現在もなお不安定な状況が続いています。

こうした世界的な経済の混乱のあおりを受けて、２００９年の我が国の筆記具業界は、完成品の販売で約１６％減、輸出も２割強の減少という厳しい結果でした。

そのような中、工業会は石川前会長が提唱された「書育」活動に熱心に取り組んでまいりまして、書育教材を開発し、「書育推進協議会」を発足させました。ところで、「書育/しょいく」とは、「手で書くことが人の成長と共にあり、さらには手で書くことによって人が育まれる」という考え方を鼓舞するキーワードです。本日、書育教育教材が完成いたしましたので、後ほど皆様にご披露させていただきます。この教材開発に当たりましては会員の皆様のご支援ご協力を頂戴しました。また、大学教授や教育現場の先生の多大なご協力もいただきました。この場をお借りして各位に深く御礼申し上げます。

さて、「書育推進協議会」発足のプレス発表を先の４月２８日に市ヶ谷私学会館で開催しまして、業界紙様、一般紙様、ＮＨＫ、文教新聞様、総勢３０名のご出席をいただきました。業界紙様には今週頃から、また一般紙も今後、記事になっていくだろうと期待しています。

平成２２年度は、この「書育」教材を活用して「書育」という考え方を普及させる本格的な活動に入っていきます。「書育」活動は書く文化の振興を目的とするもので、長期的には筆記具の普及と消費の拡大につながると考えております。どうか会員各位のご支援ご協力をお願い申し上げます。

工業会の発展を願い挨拶する堀江圭馬会長。懇親会にて

平成22年度第1・2四半期 委員会・部会活動

＜総務 関係＞
２．９　書育推進協議会運営委員会
・「書育推進協議会」設立総会
・「書育」教材開発の進捗について
・会員募集について
・他団体との協調について
・その他（記者発表、会報について）

３．１７　総務委員会（平成 20 年度 第４回）
・H21 年度決算見通しならびに H22 年度予算案について
・「書育」活動報告について
・2010JWIMA 技術交流会について

３．３０　書育推進協議会運営委員会
・「書育」記者発表について
・「書育推進協議会」会報について
・「書育」学習教材開発の報告について

４．５　総務委員会（平成 22 年度 第１回）
・H22 年度第１回理事会ならびに第９回通常総会上程案について
・「書育」活動の報告について

５．３１　書育推進協議会運営委員会
・平成 21 年度活動の総括について
・平成 22 年度活動計画について
・その他

６．１５　総務委員会（平成 22 年度 第２回）
・秋～年末の行事計画について
・2010JWIMA 技術交流会について
・書育関連報告について
・その他（会員動静について）

＜調査研究・広報 関係＞
４．２６　調査研究・広報委員会（平成 22 年度 第１回）
・2010JWIMA 技術交流会の運営について

４．２６　技術交流会 出展社説明会 開催

＜流通 関係＞
１．２１　お客様相談窓口連絡会（平成 21 年度 第４回）
・各社のお客様対応事例について
・ボールペンの役立ち情報の見直しについて

３．１８　お客様相談窓口連絡会（平成 21 年度 第５回）
・各社のお客様対応事例について
・ボールペンの役立ち情報の見直しについて

＜技術国際 関係＞
２．１０　製品安全小委員会（平成 21 年度 第２回）
・筆記具のｶｰﾎﾞﾝｿﾌｯﾄﾌﾟﾘﾝﾄ進行状況について
・安全関連情報について
・筆記具の安全基準について

２．１６　シャープペンシル部会（平成 21 年度 第３回）
・ＩＳＯ規格定期見直し案件の審議について
・JIS Ｓ 6005（ｼｬｰﾌﾟﾍﾟﾝｼﾙ用しん）の見直しについて

３．４　マーキングペン部会（平成 21 年度 第５回）
・ラインマーカー（蛍光ペン）業界基準の作成について
・EWIMA 技術委員会（2/1;ﾌﾗﾝｸﾌﾙﾄ）出張報告について

３．１９　技術国際委員会（平成 21 年度 第２回）
・各部会 H21 年度下期活動報告ならびに H22 年度活動計画について
・EWIMA 技術委員会報告について

５．１４　ボールペン部会（平成 22 年度 第１回）
・ｹﾞﾙｲﾝｷﾎﾞｰﾙﾍﾟﾝ レフィル互換表について
・その他

５．１８　製品安全小委員会（平成 22 年度 第１回）
・筆記具の安全基準について
・安全関連情報について
・その他（BS7272→ISO 化について）

５．２８　修正液部会（平成 22 年度第１回）
・JIS S 6055（事務用修正液）の見直しについて
・修正テープ規格化の検討

６．１６　マーキングペン部会（平成 22 年度 第２回）
・ラインマーカー（蛍光ペン）業界基準の作成について

＜全文協との共催 関係＞
１．１３　合同知的財産部会
３．１６　知財プロジェクトリーダー会議
６．７　合同知的財産部会

（以上）

第3回　技術交流会　開催

出展15社　参加200名超　2010 JWIMA技術交流会

会員同士のビジネスの社交場「ＪＷＩＭＡ技術交流会」を６月１７日開催しました。今回で第３回を数え、出展社は１５社、来場者も２００名超と発展しています。
開会に先立ち堀江圭馬会長は、「日本の筆記具の部品・材料メーカーのすばらしい技術を隅々まで見る機会はなかなかないので、こういう場で交流を深め、ビジネスにつなげてもらいたい。そして皆さんと我々、複数の企業がひとつの集合体となって魅力的な商品をつくり、世界で活躍できることを期待したい」と挨拶しました。

出展企業は、加工、素材、完成品、部品、素形材メーカーなど、日本の開発力の基盤を支える優れたメーカーたち。当日参加したメーカーの購買担当は、「国際競争にさらされているいま、優れた部品を少しでも安く入手するためには、新たな取引関係を開拓していかなければなりません」と真剣な面持ちでした。

＜２０１０　ＪＷＩＭＡ　技術交流会　出展企業＞

①　岩崎金属工業㈱	金属表面処理・印刷等の加工業
②　㈱　大　平	ﾄﾗﾝｽﾌｧｰ ﾌﾟﾚｽﾏｼﾝ加工、シャーペンシルメカニズムのメーカー
③　オーベクス㈱	ペン先メーカー
④　オリエンタル産業㈱	鉛筆芯・色芯のメーカー
⑤　北星鉛筆㈱	鉛筆・おが屑リサイクル商品のメーカー
⑥　㈲城南精機製作所	ﾎﾞｰﾙﾍﾟﾝﾁｯﾌﾟ等金属精密加工業
⑦　㈱　千　年	シャープペンシル用芯、替芯のメーカー
⑧　㈲千代田塗装工業所	金属焼付精密塗装・プラスチックUV塗装等の塗装業
⑨　司フェルト商事㈱	筆記具用ペン芯等のメーカー
⑩　テイボー㈱	複合素材、マーキングペン先メーカー
⑪　東京金属工業㈱	ペンクリップ、リング等の加工業
⑫　東洋繊維化工㈱	筆記具用中芯等のメーカー
⑬　㈱日本万年筆製造所	プレス加工によるペンクリップ・ペン先等のメーカー
⑭　ヒノデワシ㈱	消しゴム等樹脂加工のメーカー
⑮　守屋彫刻工芸㈱	表面加工、柄付の加工業

寸劇実演で模倣の実態と対策をアピール　ISOT2010

(社)全日本文具協会とJWIMA知的財産部会が協同実施

社団法人全日本文具協会とＪＷＩＭＡ知的財産部会は協同して、ＩＳＯＴ２０１０の２日目の７月８日（木）に模倣品対策セミナーを８０名の受講生を集めて開催しました。共催による模倣品セミナーは今回で６回目、業界を超えた評価を得ています。

開会の挨拶に立った全文協の長谷川会長は、「海外における模倣品は、中国・台湾・韓国にとどまらず広くアジア全体に広がっています。被害も拡大しており、商標権や意匠権にとどまらず、特許権も侵害されているという例も増えています。関係各局と協力して模倣品対策を強化していく必要があると考えます」と知財対策の重要性を強調しました。

今年のテーマは「はじめての海外模倣品対策」。経済産業省、JETRO、国際特許事務所から特別解説者を招き、グループリーダーの秋山守雄さん（ゼブラ知的財産部長）が進行役を務めました。

若手俳優による寸劇と、法的な解説を交互にはさんで、知財の重要性を訴えました。中ほどに聴講者も参加する「○×クイズ」を実施、会場を沸かせました。今年の寸劇にも寺西化学工業の藤島満年支社長が「社長役」で出演。深刻なテーマでありながら、ほほえましい演出もなされていました。

●コーディネーター
秋山　守雄　氏
（ゼブラ ㈱ 研究本部　知的財産部長・ISOT模倣品対策プロジェクトチームリーダー）

●特別解説者
知的財産権問題において行政、国際特許事務所、団体等でご活躍の方々（順不同）
墳﨑　隆之　氏
（経済産業省　製造産業局　模倣対策　通商室　弁護士）
水野　　清　氏
（コスモ国際特許事務所、上海コスモ商標事務所　所長　弁理士）
吉村佐知子　氏
（日本貿易振興機構　在外企業支援　知的財産部　知的財産課長）
牧　　満夫　氏
（㈶東京都中小企業振興公社　東京都知的財産総合センター　城東支援室　知的財産アドバイザー）

●出演俳優
中野博文さん、菅　真紀さん、川名彩子さん
●特別出演
藤島　満年　氏（寺西化学工業㈱ 取締役　東京支社長）

平成20年度JWIMA事業計画
自平成20年4月1日－至平成21年3月31日

平成 22 年度においては日本筆記具工業会定款第 4 条（事業）に基づき以下の事業を実施する。

（1）筆記具とその関連製品の生産統計と貿易統計の調査及び研究
（2）筆記具とその関連製品の内外規格の調査研究
（3）筆記具とその関連製品の内外知的財産権の調査研究
（4）筆記具とその関連製品の安全及び環境問題に関する調査研究
（5）筆記具とその関連製品の外国関連団体との交流と情報の交換
（6）関係機関及び関係団体との連絡折衝と協調
（7）その他必要な事業

前各号の事業を企画推進するために設置された各委員会の平成 22 年度の活動計画

（1）<u>総務委員会</u>

1. 本工業会の組織活動の基盤である会員の入会促進を図る。
2. 組織の運営とその年間計画の立案を行う。
   - 通常総会　　５月開催
   - 会員懇親会　12 月開催
   - 理事会　原則として 4 月、5 月(通常総会時)、10 月、12 月　の４回
   - 委員会　原則として 3 月、9 月(但し、必要に応じて、委員長が召集し開催することもある)
3. 会員の相互交流を深める機会としての懇親会（通常総会時、年末講演会時、その他）、優良工場見学会、会員研修会、講習･講演会等の企画・運営を行う。
4. 行政官庁との緊密な連絡と折衝を行う。
   - 会員へのオフィシャル情報提供
5. 会員の福利厚生に資する業務を行う。(慶弔含む)
6. 予算の立案・執行と決算に関する業務の管理をする。
7. 「書育」啓発活動の推進を行う。

（2）<u>流通委員会</u>

1. 適正な販売と流通秩序に関する調査研究を行う。
   - 価格問題、カタログ等への協賛金問題の調査研究
   - その他の流通に関する問題等については、必要に応じて対応する。
2. お客様相談窓口連絡会
   - お客様相談窓口担当者による情報交換会を定期的に開催する。
   - お客様対応事例の研究を行う。（ex.お客様対応事例集にまとめる。）
   - お客様への商品知識等啓発を行う。

（3）<u>調査研究・広報委員会</u>

1. 国内の筆記具統計資料の収集と会員への情報提供をする。（生活用品統計、貿易統計等）（月次、年次データ）
2. 海外の筆記具統計資料を会員への情報提供をする。（WIMA、EWIMA 等、海外筆記具工業団体との情報交換により統計資料を入手する。）
3. 本工業会独自の調査資料を会員へ情報提供をする。
   - 海外の筆記具市場に関する調査（中国・アメリカの貿易統計等）
4. 会員相互の情報発信手段として「インターネット」の活用充実を図る。
   - 筆記具お役立ち情報等、HP 発信情報のメンテナンス
   - HP を流通やユーザーに PR し、本工業会の認知度アップを図る
5. JWIMA 通信の活用度を高める。
   - E メール配信による配布効率の向上
   - タイムリーな発行;年３回(1/1 , 6/1 , 11/1) ＋α
6. 会員・委員会・部会名簿を作成し関係者に配布する。

（4）<u>技術・国際委員会</u>

1. 工業標準化に関する活動を行う。
   ①工業標準化に関する情報収集と提供（新 JIS マーク制度等）
   ②JIS 原案作成及び改正作業及び 12 条申請の是非についての検討
   - JIS S 6055:2002（事務用修正液）については、2012 年度制定に向けて改正活動を予定。

・その他

③JNLA（工業標準化法に基づく試験事業者認定制度）生活用品分野（文房具）技術分科会の筆記具に関する事項

2. 国際規格等（ISO・EN・BS・DIN・NF・ASTM・SANS）に関する活動を行う。
・国際規格に関する情報収集と提供
・ISO/TC10/WG18 に係る規格作成及び改正に関する審議及び提案
①ISO12756、14145 の NWIP に関するフォロー
②ISO9177-1,2,3、ISO9175 に関しては、前年度の定期見直しで「確認」と投票したが、9177-1 に関してはコメントを付したので、そのフォローを行う。
・ISO/TC10/WG18 活動支援
・ISO/TC10 国内対策委員会への参画

3. PL（製造物責任）法に関する調査研究
・クレーム分析と技術的対応
・表示（使用上の注意等）の問題

4. 安全性・環境への配慮に関する調査研究
・国内の法令に関する情報収集と提供
・国内の環境マークに関する調査研究（エコマーク関連等）
・海外の安全・有害物規制に関する情報の収集・提供と日本からの発信
REACH 関連、BS 7272-1（キャップの安全要件）、BS 7272-2（尾栓規格）、EN71-3,-9,-10,-11 、ｱﾒﾘｶ CPSIA（鉛、ﾌﾀﾙ酸ｴｽﾃﾙ規制）関連等

5. 技術及び品質の向上に関する活動
・会員の技術向上に関する研修会の実施
・品質向上に関する調査研究（試験方法、評価方法及び試験機器、測定機器の統一等）

6. 知的財産権に関する調査研究
・主に、中国模倣品問題に関する調査及び対応
(社)全日本文具協会が主導し、日本筆記具工業会がこれに協力する体勢で活動。
模倣品対策情報の共有化、中国冒認意匠登録(なりすまし出願)ウォッチングの検討、アジア圏における模倣品対策の強化と関係団体との連携、ISOT2009 における知的財産活動、行政・他業界との対応など。
・知的財産権に関する会員への啓発と情報提供

7. 海外筆記具・文具業界との情報交換に関する活動

8. 各部会に関する活動

9. その他　（以上）

用語の解説

国際規格等

ＩＳＯ　International Organization for Standardization/国際標準化機構
ＥＮ　Euro Normale/欧州規格
ＢＳ　British Standards/英国規格
ＤＩＮ　Deutsches Institut fur Normung/ドイツ規格協会（ＤＩＮ規格は Deutsche Norm と標記される。）
ＮＦ　Normes Francaises/フランス国家規格
ＡＳＴＭ　American Society for Testing and Materials/米国試験材料協会
ＳＡＮＳ　South African National Standards/南アフリカ共和国規格(局)

日・米・欧の工業会

ＪＷＩＭＡ　Japan Writing Instruments Manufacturers Association/日本筆記具工業会
ＷＩＭＡ　Writing Instrument Manufacturers Association/米国筆記具工業会
ＥＷＩＭＡ　European Writing Instrument Manufacturer’s Association/欧州筆記具工業会
ＥＰＭＡ　European Pencils Manufacturers’ Association/欧州鉛筆工業会
ＩＳＺ　Industrieverband　Schreiben、Zeichnen、kreatives　Gestalten　E.V.／筆記、製図及び創作工芸用品工業会（ドイツ）

製品別規格等

ＢＳ７２７２－１
英国規格「筆記具及びマーキングペン用の安全キャップの仕様書」
ＢＳ７２７２－２
英国規格「筆記具及びマーキングペンの尾栓の仕様書」
ＥＮ７１－９
玩具に含まれる有機化合物（要求事項）
ＥＮ７１－１０
玩具に含まれる有機化合物（サンプルの準備と手順の抜粋）
ＥＮ７１－１１
玩具に含まれる有機化合物（分析方法）
ＴＣ１０
ISO の Technical Committee 10(技術委員会)→ISO/TC10 Technical

drawings product definition and documentation/製図製品の規定と関連文書”
ISO/TC10/WG18 ISO/TC10 における第 18 番目のﾜｰｷﾝｸﾞｸﾞﾙｰﾌﾟ（WG）で、筆記具全般の ISO 規格上の技術的な問題について審議を行う。

安全キャップ・安全尾栓について　英国よりISO提案！

適用範囲拡大に、JWIMAは危惧

本年４月に英国より、ＢＳ7272 - 1,-2：2008（筆記具の安全キャップ、安全尾栓）をＩＳＯ化する案件が正式に提出され、それをプロジェクトとして採択するかどうかの投票（8/5まで）がＩＳＯ/ＴＣ１０で現在行われています。

先般、６月１８日～６月２４日にスウェーデン・セデーテイェで開催されたＩＳＯ/ＴＣ１０国際会議のWG 18 meeting（Drawing and writing instruments）でも英国より説明が行われ、議論を行いました。

WG18 meeting には、ＪＷＩＭＡから塩井恵子氏（㈱サクラクレパス）が convener として、また伊波　泰氏（ぺんてる㈱）が expert として出席しました。

英国では、１９７０年以降１５名の子供がペンキャップをのどに詰まらせて死亡しており、尾栓によっても別に２名の子供の死亡が確認されているとのことです。日本では、ペンキャップをのどに詰まらせての死亡事故は皆無ですが、安全キャップへの対応は早くから手がけてきました。（欧米では何でも歯で噛んで引き抜く習慣があるらしく、日本人はそうしないのかと会議で驚かれたそうです。）

ただ、今回の提案は、これまで 14 歳未満の子供用の筆記具を対象としていたのが、子供の使用する可能性があるものすべてに「適用範囲」を拡大していることと、また、新たに「尾栓」も合理性を欠いた内容のままＩＳＯ規格に取り上げようとしている点を、ＪＷＩＭＡとしては問題視しています。ＩＳＯになれば当然ＪＩＳにも整合性を求められることになりますし、本当にそこまで必要であるのかどうか疑問です。

この案件が、ＩＳＯ化のプロジェクトとして採択された場合、ＪＷＩＭＡは積極的に関与して日本意見を取り入れてもらう方向に進みたいと考えています。

お知らせ

●ゲルインキボールペンの JIS（JIS S 6061）が改正され、平成 22 年 3 月 23 日付けで発行となりました。購入される場合は、工業会経由で申込みを行っていただければ１０％引きとなります。
（契約により工業会にも５％の手数料が入りますのでご協力下さい。）

●現在、総務委員会では今年の秋冬にかけての工業会行事を企画検討しています。まだ、具体的に案内できる段階まで煮詰まっていませんが、おおよそ次のような日程で開催する予定です。（企画が具体化したものからご案内させていただきます）ご期待ください。

★９月２５日 第７回会員親睦ゴルフコンペ
（石坂ゴルフ倶楽部／埼玉県比企郡鳩山町にて）

★１０月２６日 会員研修会
（浅草橋・ベルモントホテルにて、テーマ調整中）

★１１月１７日 優良工場見学会
（JAXA 宇宙開発センター・茨城ハム・国土地理院科学館）

★１２月 １日 年末講演会・懇親会
（上野精養軒にて、講師：松永真理 氏）
講師略歴　（リクルート時代）「とらばーゆ」編集長、（NTT ドコモ時代）ｉモード開発、現在、バンダイ社外取締役、内閣府 宇宙戦略委員。

手書きの大切さを広く社会に
書育推進協議会が発足しました

平成22年２月９日、鉛筆会館（東京都荒川区）にて書育推進協議会の設立総会が開催され、手書きの価値や意義、楽しさ、そして効用などを広く社会に伝える運動がスタートしました。

日本筆記具工業会は、平成 18 年より「書育」のコンセプトやロゴマークを作成し、ホームページで情報発信するなど、啓発活動に取り組んでいますが、我々の「書育」の見識やノウハウには限界があります。また、いろんな人が「書育」という言葉を唱えるようにならなければ、それこそ業界のキャンペーンで終わってしまいます。

そこで、「書育」の後ろ盾となる「学術的基盤」が欲しいと思っていたところ、手で文字を書くことの価値や意義を研究する大学関係者と出会うことができ、共同して「書育推進協議会」をつくることとなりました。約１年間の準備期間がありましたが、その間「書育教材」の開発にも助力いただきました。ただ、こういった運動は筆記具メーカーなり業界団体があまり前面に出ない方が広めやすいこともあり、今のところ教育色が目立った組織となっています。

また、「書育」をいろんなジャンルにまたがった幅広い活動にしていくためには、中立性が必要で、書育推進協議会はひも付きではなく、あくまで自律した組織とならなければなりません。そのため、広く会員を募り、経済的基盤も整えていくことが必要となります。これからは業界の枠を越えて「書育」推進の呼びかけを行ってまいります。

平成 22 年度は、書育推進協議会の離陸する年となります。書育教材の活用普及や「書育」の認知度を上げるための新たな活動も計画しています。工業会会員の皆様にもご協力をお願いいたします。

【書育推進協議会の主な役員】

会　長／久米　公（元 文部省視学官・元 千葉大学教授）
副会長／小野　博（昭和大学客員教授・メディア教育開発センター名誉教授）
副会長／河野庸介（群馬大学教育学部教授・同 附属小学校校長）
副会長／千々岩弘一（鹿児島国際大学・同 大学院教授）
副会長／堀江圭馬（日本筆記具工業会会長）
専務理事・事務局長／鈴木慶子（長崎大学教育学部教授）

【書育推進協議会　事業計画】

1．「書育」に関する啓発事業、情報発信
（１）「書育」啓発に関わるイベントを開催し、書育の認知度を向上させる。
（２）ホームページ活用により「書育」関連情報を発信する。
（３）書育推進協議会「会報」を発行する。（季刊）

2．「書育」に関する調査・研究
（１）「書育」学習教材開発への協力・支援を行う。
（２）「書育」関連研究情報を収集する。
（３）その他「書育」に関する調査研究を行う。

3．本会の組織強化事業
（１）組織活動の基盤である会員・賛助会員の入会促進をはかる。
（２）会員相互の交流を深める研究会や懇親会を開催する。
（３）会員相互の情報交流手段としてインターネットの活用充実をはかる。

4．関連機関及び関係団体等との連絡折衝と協調
（１）関係官庁との緊密な連絡折衝を行う。
（２）関係団体との交流、連携により「書育」啓発に資する反映を行う。

5．その他　「書育」に関する事業

書育教材集
（平成 22 年度版）完成

【書育教材集 手引きより抜粋】

1.本教材の構成

・「書育」によって育まれる三つの力
「学習力」・「コミュニケーション力」・「創造力」プラス「手書きへの興味」を育む４つの単元から構成。

・各単元では、4～6つの学習テーマ（計 19 テーマ）が設けられ、教師が授業で「系統的に学習させる」のかあるいは「その時のテーマにあったものだけ取り上げて用いる」のか自由に選べるようになっている。

・また、各学習テーマ毎に「児童・生徒用のワークシート」と「教師用指導書」を作成し、CD-R に収録している。（学校で必要なものだけをプリントアウトする。）

・更に「サンプル授業」の DVD もセットされている。

2.本教材の対象

・本教材は、小学校低学年から中学生まで幅広く学べるようになっている。
中心的には小学校中学年から高学年を想定し、漢字は４年生修了時までのものを使用し、最初に登場する漢字には全てルビをふっている。

3.本教材の活用方法

・「国語科」など教科教育の発展教材、あるいは「総合的な学習の時間」など教科横断的な学習教材としてご活用できる。

4. 本教材を活用しての授業のねらい

1）「手で書くこと」への興味を呼び起こし、自ら「手で書くこと」の大切や意義を探求させる。

2）「手で書くこと」によって育まれる「学習力」、「コミュニケーション力」、「創造力」について、実践教材を活用し、総合的な探求方法を通して学習してゆく。

5. 本教材を活用した授業の目標

1）「ノートをとる」ことで、頭の中がどのように整理され、学習力の向上に繋がるかを自ら発見する。また、より学習力を向上させるためにはどのようなノートを作れば良いかを自ら考える。

2）「手紙」や「葉書」を人と交わすことで何が生まれてくるかを自ら発見する。またコミュニケーション力を伸ばしてゆくためには、「手紙」や「葉書」を書く時に、どんな事を実践してゆけば良いかを自ら考える。

3）問題の解決や創造的な思考に「手で書くこと」が有意義であることを自ら発見する。また「手で書くこと」で思考を発展させたり、発想を広げてゆく手法を学ぶ。

4）手で書くための道具として様々な筆記具があることを知り、またそれらを使っての表現を自ら発見する。また身の周りのものが「手で書くこと」から始まっていることを知り、「手で書くこと」のメリットを自ら発見する。

◆ 本教材集制作の監修者

鈴木 慶子（長崎大学 教育学部 初等教育講座 教授）

金馬 国晴（横浜国立大学 教育人間科学部 生活科教育講座 准教授）

糸岡 清一（横浜国立大学 人間科学部 非常勤講師）

小峰 みち子（横浜市立富岡小学校 校長）

【発行】 書育推進協議会

【制作】 日本筆記具工業会

◆書育教材集は、書育ホームページよりＰＤＦファイル形式でダウンロードできます。
（JWIMA ホームページ→書育ＨＰ→書育を学ぶ→トピックス）
http://www.jwima.org/shoiku/study_topics/study_topics_kyouzai.html

書育推進協議会
設立発表会　開催

書育推進協議会は、報道機関の理解を通じて「書育」の振興をはかろうと、４月28日に設立発表会をアルカディア市ケ谷で開催しました。

主催者側は、書育推進協議会の正副会長、専務理事を中心に役員が出席。ＪＷＩＭＡからも運営委員会メンバーが開場づくりや受付など応援しました。

出席した報道関係者は、全国紙(毎日・読売・日経新聞)、ＮＨＫ、共同通信、文教専門紙６社、文具業界紙１０社、合計２７名でした。

冒頭、久米　公会長が挨拶し、「手で書くことが人の成長と共にあり、さらには手で書くことによって人が育まれると考える私たちは、このたび『書育推進協議会』を発足させました」と設立趣旨を述べ、書育に寄せる自身の思いを「付言」として添えました。

内容は、1）主催者挨拶、2）「書育」のコンセプトならびに協議会設立の経緯について、3）事業計画について、4）各副会長より「書育」について、5）書育教材の開発・配布について、6)「書育」テスト授業 DVD 視聴、7）質疑応答　などでした。

ＮＨＫ報道局がカメラ班同行で取材に訪れたため期待は膨らみましたが、残念ながら当日のニュース７での扱いはなく、ＮＨＫラジオと局のインターネット文字放送で紹介されました。一般紙では共同通信=下記事他=、日本経済新聞が、文具専門紙では全紙が、また文教関係媒体も関心を示し、注目のテーマとして「書育」活動を紹介くださいました。

「書育推進協議会」の発足記者会見＝東京都千代田区

学習力、コミュニケーション力、創造力…

こどもタイムズ

手書きは人育てる

推進協発足　教材、学校に好評

パソコンや携帯メールなどの普及に上り、筆記具を用いて書く機会が減っている。文字を手書きすることの価値や意義、楽しさ、効用などを広く社会に伝えようと、教育関係者らがこのほど「書育推進協議会」を設立した。

「書育」は、「手で文字を書く行為で、人が育まれる」という考えを表現した造語。文字を手書きする行為が、学習力やコミュニケーション力、創造力を養うという。

「手書き文字は個性の表出であり、人間味が付加された情報媒体です」

協議会の発足記者会見で会長の久米公・元平塚市長は述べた。「書育」は、小学生から大学生まで学力向上の切り札」(副会長の小野博・昭和大客員教授)、「手書きは、実用性から芸術性まで力強いパワーがある」(副会長の河野興介・群馬大教授)など、教育の専門家が集まって手書きの重要性を強調する。

協議会は小中学生向けのオリジナル教材を、教師用指導書を制作。「書くとおすすめ」っていうポントが「つになっており、「自分なりのノート」「自分なりの近の言語教育は音声にエートが傾かれる傾向があるが、「書く行為を通じて教育の重要性を見直す構成されたワークシート」

と話している。

協議会は教材開発、指導書をCD-ROMに収め、希望する学校に無料で配布、同会のホームページでも、ダウンロードできる。学校側では、指導に必要な部分だけをプリントアウトすればよく、「内容は大人でも十分に楽しめる」(協議会)。夏休みなどに、手書きをテーマにした子ども向けイベントを開催することも検討している。

同校の親持勉校長は「書育は、書いて頭を整理し、理解する」ことで、文字を正確に書けるようになるが、最近の言語教育は音声に傾かれる傾向があるが、書く行為を通じて教育の重要性を見直すきっかけになると思う」

書育推進協議会　教育学者や文具メーカーの団体などが、今年2月に設立。書育の推進事業や情報発信、医学や心理学、美術、脳科学などの学術分野での関連情報の収集なども行う。活動に賛同する個人、団体の会員も募集している。

書育教材を使ったテストケースの授業＝東京・小金井市立小金井第一小学校（同校提供）

＜書育フォーラム2010＞開催

ご案内

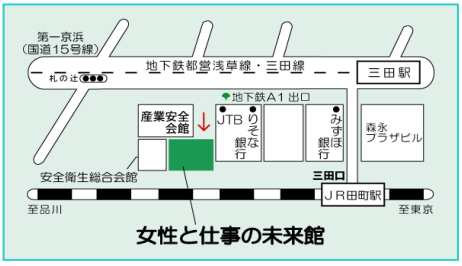
第一部　書育推進協議会　活動紹介　司会　鈴木慶子（長崎大学教育学部教授）
第二部　講演「情報化と漢字 ―改定常用漢字表の意義― 」
　　講師：林　史典（文化審議会 国語分科会 分科会長／聖徳大学教授）
閉会の辞　千々岩弘一副会長（鹿児島国際大学・同大学院教授）

主　催　書育推進協議会　　後　援　㈶文字・活字文化推進機構
日　時　8月19日（木）15:30～17:00 （受付15:00開始）
会　場　「女性と仕事の未来館」（JR田町駅 西口下車 徒歩3分）
会員入場無料

平成１７年３月、文部科学大臣より文化審議会に「情報化時代に対応する漢字政策の在り方について」諮問が行われ、５年にわたった審議を経て、平成２２年６月に文化審議会から「改定常用漢字表(2136 字)」の答申が行われました。今回の改定では、情報化時代の漢字の多用化傾向を受けて、手書きを重要視しつつも、すべてを書ける必要はなしとして、昭和５６年制定された「常用漢字表(1945 字)」から５文字を削除し 196 文字を追加されています。さらに年内には、内閣告示される予定であるとか。
その真只中にある私たち書育推進協議会は、この「改定常用漢字表」の意義を正しく認識し、現在及び未来に向けて、適切に使いこなしていきたいと考えています。
ついては、今回の答申において、「漢字を手書きする」ことに関して、運用と習得及び文化の面から整理されたということですので、審議の全体の流れをふまえつつ審議会主要メンバーである講師からわかりやすく解説していただき、これからの「書育」の目指す方向をご参加の皆様と共に考えていきたいと願っています。

平成２２年７月
書育推進協議会　会長　久米　公

【会場へのアクセス】
「女性と仕事の未来館」 港区芝 5-35-3
TEL. 03-5444-4151㈹
JR山手線田町駅 西口下車 徒歩3分
都営地下鉄（浅草線・三田線）三田駅
A1出口から徒歩1分
http://www.miraikan.go.jp/setumei/index.html



【申し込み・問い合わせ先】
8月10日までに事務局宛ご一報ください。
TEL. 03-3891-6161　FAX03-3802-9692
東京都荒川区西日暮里2－30－6
鉛筆会館内　書育推進協議会事務局
※当日受付も行います。

書育フォーラム2010には、書育推進協議会が日本筆記具工業会会員の皆様をご招待します.

書く力は、育む力

2009年の出荷・輸入・輸出　=年間=

繊維・生活用品統計（旧雑貨統計）より　（国内向け販売と輸出向け販売を含む）　金額：百万円

出　荷		2009年間		2008年間		前年変動率	
	単位	数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	400,803	23,740	492,470	28,841	−18.6%	−17.7%
ボールペン(水性)	千本	785,797	30,435	897,440	36,543	−12.4%	−16.7%
マーキングペン	千本	647,073	31,079	770,624	37,155	−16.0%	−16.4%
シャープペンシル	千本	150,027	13,805	173,067	15,592	−13.3%	−11.5%
鉛筆	G	1,612,781	5,572	1,841,486	6,413	−12.4%	−13.1%
シャープしん	千本	2,569,842	4,062	3,085,134	4,862	−16.7%	−16.5%
修正液	千本	33,281	2,716	38,158	3,194	−12.8%	−15.0%
修正テープ	千個	65,505	5,534	72,719	6,391	−9.9%	−13.4%
クレヨン・パス	千本	103,705	1,657	111,204	1,809	−6.7%	−8.4%
水彩絵の具	千本	48,337	2,186	50,585	2,326	−4.4%	−6.0%
			120,786		143,126		−15.6%

日本貿易統計より(抜粋)

輸　出		2009年間		2008年間		前年変動率	
	単位	数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン(油性)	千本	158,904	5,737	216,414	8,206	−26.6%	−30.1%
ボールペン(水性)	千本	574,153	24,380	727,997	32,569	−21.1%	−25.1%
マーキングペン	千本	319,313	12,452	358,160	14,686	−10.8%	−15.2%
シャープペンシル	千本	87,732	5,278	108,720	6,617	−19.3%	−20.2%
万年筆	千本	5,031	821	6,641	1,055	−24.2%	−22.2%
製図用ペン　（金額：千円）	本	4,804	575	14,400	963	−66.6%	−40.3%
以上のセット品	千個	918	135	1,230	151	−25.4%	−10.6%
黒芯鉛筆	Kg	73,415	217	78,322	239	−6.3%	−9.2%
色芯鉛筆	Kg	51,164	187	76,237	285	−32.9%	−34.4%
修正液	千個	24,092	1,735	−	−	−	−
修正テープ	個	843,591	58	−	−	−	−
			51,575		64,771		−20.3%

日本貿易統計より(抜粋)

輸　入		2009年間		2008年間		前年変動率	
	単位	数量	金額	数量	金額	数量	金額
ボールペン	千本	238,643	5,762	258,822	7,796	−7.8%	−26.1%
マーキングペン	千本	163,604	2,503	175,007	3,326	−6.5%	−24.7%
シャープペンシル	千本	42,405	1,370	45,708	1,475	−7.2%	−7.1%
万年筆	千本	1,747	1,045	3,755	1,463	−53.5%	−28.6%
製図用ペン　（金額：千円）	本	11,785	11,622	200,250	14,900	−94.1%	−22.0%
セット品	千個	1,049	102	807	95	30.0%	7.4%
黒芯鉛筆	Kg	610,452	540	682,206	592	−10.5%	−8.8%
色芯鉛筆	Kg	1,191,713	819	1,378,751	1,188	−13.6%	−31.1%
修正液	千個	2,399	72	−	−		−
修正テープ	千個	48,768	1,761	−	−		−
			25,596		30,835		−16.9%

【概況】全種の筆記具等の出荷が前年を割った。主要4種（ボールペン、マーキング、シャープ、鉛筆）の数量・金額の平均マイナス幅は15%と深刻だった。08年秋の米銀破綻に起因する世界同時不況が消費と在庫を極度に冷え込ませたことが原因と考えられる。月別（金額）で見ると、4−8月が▲20%台、7月が▲29%と最も激しく、9月以降▲10%台に回復、11月はほぼ同額、12月はプラスに転じた。

輸出も全種の筆記具等が前年を割った。9品目平均の減少率は数量で▲26%、金額で▲23%だった。油性ボールペンの輸出金額は02年の約2分の1、水性は約25%減という状況だった。

輸入は一部を除いて概ね前年を割った。中でも世界同時不況はアジアメーカーに極端な値引きを押し付けた様子だ。例えばボールペンの数量が約8%減少したのに対して、金額は20億円強、26%も減少させている。同じ傾向はマーキングペンでも顕著だった。

ところで、2010年1−5月の出荷速報（金額）では、不況は去ったといえそうだ。10年2−4月まで一桁台だが微増し、5月で23%増となっている（合計前年同期比）。我が国は、品質・実力に見合った成長を取り戻している。